

## 大宰府アカデミー・令和編 第16講 令和6年7月17日(水)質問及び回答(Q&A)

### 「 戦国時代の太宰府と山城 」

講師・回答： 岡寺 良先生(立命館大学文学部准教授)

この度は大宰府アカデミー・令和編を受講いただき誠にありがとうございます。  
皆様からいただきましたご質問につきまして回答いたします。  
なお、ご質問につきましては、抜粋して掲載しておりますことをご了承ください。

Q/ 岩屋城合戦の時、太宰府の民はどうなっていたのでしょうか？捕虜になったのか、あるいは一時的に避難したりしていたのでしょうか？また岩屋城に逃げ込むようなことはあったのでしょうか？

#### A/ 回答

これは後世の地誌記載や伝承になりますが、岩屋城合戦を契機に太宰府近辺の寺社(崇福寺・武蔵寺・御自作天神など)が焼亡した事象がありますので、島津勢は太宰府周辺の寺社や村落を襲撃した可能性は考えられます。うろ覚えですが、島津勢が同年に豊後府内に攻め入った際には捕虜をとったことなどがあつたと思いますので、岩屋城合戦においても同様なことがあつた可能性は考えられます。また民衆が城に逃げ込むことに関しては、毛利元就の吉田郡山城における籠城戦では、山麓の住民とともに城に立てこもって応戦したことが知られますが、必ずしも一般的なことではなく、岩屋城合戦の場合は、それはなかったのではないかと考えております。あくまでも武士対武士の戦いだという位置づけでしょうか。

Q/ 山城では、防御施設で足止めした敵方を曲輪から狙うとのご説明でしたが、だとすると山城が築かれた山は基本的に山頂部からの視界を遮る樹木などは伐採されていたと考えていいのでしょうか？そうすると保水力が弱くなるでしょうから大雨など降ったら大変だったのではないのでしょうか？

#### A/ 回答

山頂を中心とした城の主要部分一帯については、眺望をきかせるため、敵の接近を察知しやすくするために樹木をある程度伐採していたものと考えられます。ただすべて伐採していたと

までは言えないと思います。天正 18 年の豊臣秀吉の伊豆山中城攻めの際の動員兵の記録では、城内の戦いの動向を知るため、曲輪内にあった高木に上って、まわりの状況を探ったという記載などもあり、いくぶんかは木が残されていた可能性はあります。また、山麓にかけての  
一帯については、基本的に木は残していたものと考えられます。もちろん保水という点もありますし、また山を丸裸にしてしまうと逆に城を守るうえでも逆襲に出にくくなるという欠点もあります。越後の事例では、守城側の降伏の条件として、山全体の樹木を伐採するということが含まれており、山を丸裸にすることは城の抗戦能力を奪うということを意味していたものと考えられます。

※ ご質問ありがとうございました。